

松蔭 校長室だより

—校長から保護者の皆さまへのメッセージです—

2019年4月10日 発行

松蔭中学校・高等学校
校長 浅井宣光

「一粒のからし種」(松蔭女子学院モットー) “Open Heart, Open Mind”(中高スクールモットー)

新年度のスタートにあたって 今年度の学校運営方針

新元号が発表され、世の中は、慌ただしく時代の移り変わりに備えているようです。松蔭女子学院では、行政機関とのやり取りを除き、従来から西暦を使用していますので、改元についての混乱はありません。混乱といえば、今月から校内では、ICT化推進の一環として会議資料に紙を用いない、いわゆるペーパーレス化を行っています。タブレットを手に会議に出席する私には、心許(こころもと)ない表情が浮かんでいるように思います。ICT機器の利用については、現時点では生徒貸出用のタブレットを備えて、授業やクラブ活動に利用できるようにしていますが、2020年度からは、生徒が各自のデバイスを持つようにする予定です。スマホ世代の生徒たちは、間違いなく大人よりも格段に早く使いこなすことでしょう。学校へのICT機器の導入は、使用が目的ではなく、あくまで学校教育の様々な場面で、手段とすることを念頭において推進したいと考えています。

今年度の学校運営方針として、下記の5項目を全教員の会議で確認しました。役職者についてもお知らせします。1年間、どうぞよろしく願いいたします。

(今年度運営方針)

- (1) 学院モットー「一粒のからし種」、中高スクールモットー“Open Heart, Open Mind”(心を開いて、思いを自由に)の理念を、日々の教育実践に生かす。
- (2) 生徒・保護者の安心・安全を絶対のものとして確保する。
- (3) 学校全体で、ICTリテラシーを高めると共に、生徒・教職員・保護者の情報モラルの確立をはかる。
- (4) 講義形式のみの授業形態から、主体的、対話的で、深い学びのある授業への転換をはかる。
- (5) プロジェクト型学習、課題解決型学習の手法を、授業・行事その他の取り組みに導入し、その実践をキャリア教育に生かす。

2019年度松蔭中学校 松蔭高等学校の役職者(担当教科)

校長:浅井宣光(社会) 中学校副校長:番場靖子(家庭) 高校副校長:芳田克巳(国語) 事務長:平田健二
学年主任: 長尾隆一(中1・英語) 岳藤瑞枝(中2・国語) 永井昇(中3・英語)
岳藤史泰(高1・保健体育) 吉川祐子(高2・数学) 上原美由紀(高3・国語)
校務部長: 赤尾友規(宗教部・社会) 大槻泰史(教務部・理科) 中川雅博(生徒部・数学)
若木浩幸(総務部・社会) 佐々木聡(進路指導部・国語) 小林裕典(入試広報室・数学)

春休み中の活動から ニュージーランド春季交換留学とモナコ派遣

春休み中には、数週間後に迫る文化祭に向けて、各文化部員や生徒会役員が準備をすすめています。グラウンドや体育館でも、練習に励む運動部員たちの元気な姿を見ました。満開の桜とともに、新たな年度を迎えた校内には、活気が漲(みなぎ)ります。

海外校との交流も行われました。ニュージーランドの姉妹校セントピーターズスクールとの春季交換留学制度により、高1の永田弥英さんと村田杏仁佳さんが、3月中旬からの3週間のプログラムを終えました。現地入りした数日後に、クライストチャーチのイスラムモスクでのテロ事件が発生しましたが、滞在先は、600キロ以上離れた北島のケンブリッジという町で、全く問題はなかったとの報告を受けました。夏休みには、この学校で短期語学研修を予定していますので、多くの生徒の皆さんからの申し込みを期待しています。なお、現在、2名のセントピーターズ生、リリ・ワトキンスさんとサラ・ダルトンさんが交換留学生として登校しています。また、来週には、同校より別の訪問団が来校し、授業交流やホームステイを行う予定です。

Blue Earth Projectの海外プログラムとして、高1の菊原麻理奈さん、中野安結さん、松井野乃佳さんの3名が、担当の谷口先生、長尾先生の引率でモナコを訪問しました。現地では、モナコインターナショナルスクール(International School of Monaco)の高校生と交流し、海洋プラスチック汚染など海洋汚染について、英語でプレゼンをしました。この学校は25年前に設立された、松蔭中高とほぼ同じ規模の共学校です。理科の実験器材を備えたサイエンスセンターもあり、生徒たちは、環境問題に強い関心を持っています。派遣生の一人は、次のように感想を記しました。



<モナコの街並みをバックに現地の高校生とともに>

私はモナコの、環境に対する意識の高さに衝撃を受けました。モナコのインターナショナルスクールでは、サンゴについてのお話をインターナショナルスクールの生徒さんと一緒に聞いたのですが、その時にしていた質問の内容の濃さに驚きました。持っている知識の量を使い、その知識をまた深めようとしていく生徒さんたちの姿にとっても感動しました。また、テールドモナ

コという、生物多様性を大切にしていこうプロジェクトの方にもお会いして、体験授業を受けました。今後のブルーアースプロジェクトに繋がるような授業で、生物多様性についてもっと深く知りたいと思いました。(派遣生の感想文より)

なお、Blue Earth Projectは、夏休み中の8月25日、本校を会場に全国報告会を開催する予定です。全国各地の高校生が関わるようになったこの活動は、海外にも広がりを見せ、今回交流したモナコ的女子高生だけでなく、韓国の姉妹校信明高校からも参加希望の声が届いています。互いに刺激し合い、学びを深め、学習の成果が実ることを期待しています。

(裏面に続く)

今年度の語学研修・留学関連の奨学制度など

中高生の海外留学や語学研修は、ひと昔前に比べると、手軽に参加できる時代になりました。本校が提供する短期プログラムは、姉妹校での研修で、双方で協議を積み重ねてきたものです。充実した内容であると同時に、安心してお子様を送り出せるプログラムですが、参加費の問題がありました。また、1年留学についても、松蔭高校の履修単位認定も行う関係で、授業料負担の重複が問題点としてありました。下記のように、保護者負担の軽減を目的とした奨学制度がありますので、どうぞご利用ください。

① 1年間の単位認定海外留学 奨励奨学金および特別奨励制度（高校生対象）

単位認定を行う海外留学制度を利用して、1年間の海外留学をする場合、留学期間中（1年間）の授業料相当額（学年費など諸費用を除く）を奨学金として支給します。例えば、高1の9月に留学を開始し、高2の7月に帰国して復学する場合、その間の授業料 488,400 円（昨年度実績）です。また、留学開始までに英検準1級を取得、または CEFR 対照表で B1 レベルと認められた場合、特別奨励金（30万円）を併せて支給します。

② 夏期短期語学研修・異文化研修奨学制度（中学3年生・高校生対象）

下記研修に参加する生徒（毎年5名程度）に対して、奨学金を給付します。奨学金を希望する生徒のなかから、選考により奨学生を決定します。

ニュージーランド短期語学研修奨学金 10万円 韓国異文化研修奨学金 3万円

③ 内部進学生グローバル特待制度(中学生対象)

松蔭中学校卒業までに、英検2級を取得した場合、高校進学金の一部(半額)が減額されます。

相談室で「話す」「離す」「放す」

「お肌のカウンセリング」やら「トータルビューティーカウンセリング」やらで、カウンセリングという用語そのものは、身近な存在となっています。しかし、学校やクリニックで行われているカウンセリングというと、心の病や専門的な心理治療が目的で、継続して何回も面接を受ける、というイメージがあります。私が校長に就任した際に、カウンセラーの先生方をお願いしたことは、「相談室の敷居を低くする」ということでした。今では、お弁当をもって相談室を訪ねる生徒もいます。保護者の皆様も一度、ご利用ください。「話す」ことは、「離す」作業だといえます。苦しみや悩みをいったん言葉で、自分から切り「離す」のです。そして自分を、囚(とら)われから解き「放す」こともいえます。足を運ぶ小さな勇気があれば、大丈夫です。利用のしかたは、2019年度ハンドブックの「保健室・相談室」のページをご覧ください。なお、担当者について、下記のように変更していますので、よろしくお願ひします。

日永田美奈子（ひえいだみなこ）カウンセラー（公認心理士） 月・水・金

武藤友子（むとうともこ）カウンセラー（公認心理士） 火・木

2018年、心理職としては唯一の国家資格である公認心理士制度が始まりましたが、両カウンセラーともこの資格を取得済です。また、カウンセラーを交えた「保護者おしゃべり会」も企画しています。

「話す」、「離す」、「放す」機会とたく考えています。後日、ご案内文書を配布いたします

PTA活動にご協力をお願いします

PTA会長、副会長の信任投票が始まっています。「できる範囲で、楽しみながら一緒にPTA活動を」がモットーです。ご協力をよろしくお願ひします。